

県立希望が丘学園における支援について

基本理念

- 児童に安心・安定できる環境を提供するとともに、児童一人一人の「権利擁護」に努め、児童の「最善の利益」を追求する
- 「withの精神（子どもと共にある精神）」を大切に、児童の心を受け入れ、共に暮らし、共に学び、共に歩むなかで、心を癒やし、児童たちが将来命をまぐくむ役割を果たせる家庭人、社会人として自立できるよう支援する

基本方針

- ① 「児童と共に」を原則に、一人一人の背景を理解し、日常生活の場面や機会を通して、児童の健全な人格形成と自立を支援する
- ② 教員と職員が連携して、積極的な教育活動を展開し、基礎学力の定着と進路保障の充実を図る
- ③ 保護者、地域及び関係機関と連携し、入園期間の短期化など、開かれた支援活動を展開する

福祉・教育・心理・医療が一体となった福祉臨床施設

施設運営

学園・分校の綿密でタイムリーな情報共有

子どもの最善の利益を
最優先に考えた関わりを維持できる職員集団

熱意と改善意欲のある職員配置と人材育成

枠組みのある生活の中で営まれる
良質な生活環境（物的・人的・環境的）の整備

アドミッションケア

インケア

リービングケア

アフターケア

18歳まで

医療的支援

定期的・継続的な児童の健康管理や状況に応じた迅速な処置

児童の健康状態に応じた生活環境づくり

心理的支援

発達障害等の特性に応じた生活環境づくり

トラウマインフォームドケアの観点に基づいた共感的関わりや対処スキル習得等の援助

福祉的支援

児童の特徴を踏まえた基本的生活習慣の定着を目指した支援

生活を通じた児童と職員の信頼関係の構築

教育的支援

学習定着に向けたチームティーチングによる指導

児童の能力に応じた課題の提供

生活習慣の立て直し
学園分校の生活ルールの定着

ステージ1

250P以上
※累計達成ポイント

ステージ2

1,100P以上
学園内支援会・ケース会承認

生活習慣の維持
課題の発見解決

ステージ3

帰宅訓練4回以上成功
学園内支援会・ケース会承認

生活習慣の維持
親子関係再構築

試験登校や卒園の準備

ステージ4

帰宅訓練4回以上成功
学園内支援会・ケース会承認

地域生活

ステージ5

出身校の報告による評価

ステージ制の効果

ロールモデルの育成や安定した子ども集団の形成・確保・維持

努力や頑張りを適切に評価し、統一的で一貫性のある支援

スモールステップで分かりやすく連続性のある支援

規則正しくバランスのとれたリズムカルな生活の維持

ステージ制の活用
児童相談所等と連携した児童保護者に合わせたオーダーメイドの自立支援計画

事例を通じた学園支援

ステージ制	ステージ	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
	基準	生活習慣の立て直し 学園分校の生活ルールの定着 250P以上 ※累計達成ポイント	生活習慣の維持 課題の発見解決 1,100P以上 学園内支援会・ケース会承認	生活習慣の維持 親子関係再構築 帰宅訓練4回以上成功 学園内支援会・ケース会承認	試験登校や卒園の準備 帰宅訓練4回以上成功 学園内支援会・ケース会承認	地域生活 出身校の報告による評価
心理的ケアを段階的に実施する支援	生活支援 (集団)	多くの生活習慣が習得されていない 挨拶 整理整頓・身だしなみ 日課等を忘れる	・大人がモデルを示した ※察会協議→職員周知 ・個人目標に設定した ※児童と共通認識	・写真を活用した ※察会協議→職員周知 ・個人目標に設定した ※児童と共通認識	生活習慣を習得した	・発達特性や強みを活かした支援方法を伝えた
	生活支援 (個別)	職員の指導への反発や暴言	・感情の傾聴ラベリング ※察会協議→職員周知 ・個人目標に設定した ※児童と共通認識	・感情表現方法を教えた ※察会協議→職員周知 ・個人目標に設定した ※児童と共通認識	自分の気持ちを言葉で伝えることができた	・子どもの不適応行動への対処方法を伝えた
	心理的ケア (4H3A1P)	表情が少ない 自己主張をしない 家庭生活や非行内容を聞くとフリーズ	家庭生活や非行内容を少しずつ話し始める ・トラウマの視点での聞き取りやアセスメントを行い、トラウマ体験に配慮した受容的な態度で傾聴した ※察会協議→職員周知	表出できない感情を処理できず体調を崩す ・トラウマに関する心理教育を行い日常生活でトラウマインフォームドケア（感情ラベリングと受容）を実施した ※察会協議→職員周知	気持ちを言葉で伝えることができ始めた	・トラウマインフォームドケアの継続実施を伝えた
	心理的ケア (性問題)	学園生活は辛いこともあるが楽しい	家庭生活への気持ちや自分の性格等への理解を深めた ・感情教育等を実施した ※察会協議→職員周知 ・個人目標に設定した ※児童と共通認識	性問題行動の振り返りを通じて「悪かった」と反省したり被害者の気持ちを考えた ・性プログラムを実施した ※察会協議→職員周知 ・個人目標に設定した ※児童と共通認識	自信をもって他者と関わることができた	・性プログラム内容等を伝えた
	医療との連携	吃音 粗大運動（投げる等）が困難 微細運動（靴紐を結ぶ等）が困難	運動中に発話すると軽減した時にスムーズな会話ができる 姿勢保持の耐久性が向上した ・医療機関からの助言を個人目標に設定した ※察会協議→全職員周知	スムーズな会話ができる 朝ジョグタイムを更新し始めた 太鼓演舞時の体の動きがなめらかになった	・家庭と医療機関の橋渡しをした	
自立支援計画の策定と実施	保護者は子どもに関心があるものの子どもは保護者を拒否していた ・家庭訪問や面会で保護者の子育て等を労い続け親子の気持ちを聞き代弁した ※察会・支援会協議	親子交流が増え始めた ・親子の意向を踏まえた親子関係再構築方法が検討した ※察会・支援会協議	外出や家庭への帰宅訓練を通じて親子関係がより改善された 親子が互いに協力し合いながら生活を送ることができた	・親子関係不和等を改めて客観的に理解しよりよい親子関係再構築方法を見出した ※察会・支援会協議	・よりよい親子関係の維持に必要な支援を伝えた	